



6月28日、JA 種子屋久は中種子町の種子島こりゝなで、『第12回通常総代会』を開催し、総代をはじめ関係者の方々が多数出席しました。開会にあたり鮫島忠雄組合長より『熊毛地区管内の農業は、度重なる台風襲来や気象災害の影響により、農産部門については、全体的に不作の年でありました。特に、さとうきびについては、統計以来、史上2番目の低糖度・低単収と厳しい結果となり、次年度以降の再生産に繋がる対策を関係機関と連携し取り組みを進めて参ります。畜産部門については、依然として生産資材価格は高止まりの状況ですが、全国的な子牛不足の影響で高値基調が続き比較的安定した年となりました。』



▲挨拶を行う
鮫島忠雄組合長

【平成30年度基本方針】
わが国の経済は、輸出が持ち直す中、生産活動は緩やかな回復基調にあります。中国を始め新興国等の先行きや政策に関する不確実性により、わが国の景気への影響が懸念されております。

国際貿易交渉をめぐる情勢については、TPP11や日EU、5年後検討条項問題等を「自己改革に係る重点取り組み」として、改革を進めて参りますので、組合員の皆様の自己改革への取り組みについて、ご理解をお願いいたします。

本年度の農産物の不作による決算状況に併せ、会計監査人監査の導入に伴う会計方針の見直しにより、当期損失金を計上することになりましたが、組合員・地域住民の皆様のご協力により、当期剰余金1億3千万円を計上することができました。これを受け、出資配当ならびに次年度対策等を考慮した、剰余金処分案をご提案致します。』と挨拶がありました。

販売・購買部門の表彰が行われた後、中種子町の濱脇嘉則さんを議長に、平成29年度事業報告や平成30年度事業計画など9議案について審議がなされ、全て原案通り承認されました。

